

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	れぐるす		
○保護者評価実施期間	令和8年 1月 5日	～	令和8年 2月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	37件	(回答者数) 33件
○従業者評価実施期間	令和8年 1月 5日	～	令和8年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	15件	(回答者数) 15件
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月 20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・環境整備の充実と安全性の高い支援環境	・生活空間を清潔に保てるように努めている。 ・療育室が静と動の空間に明確に分けられている。	・季節や活動内容に応じて空間設定を柔軟に変更し、より多様な活動ができる環境を整える。 ・安全管理の質を高めるための職員のアイデアを活用し実践していく。
2	・個別支援計画の作成・見直しの丁寧さ	・定期的な面談やアセスメントを通じて、個別支援計画の作成、見直しが適切に行われている。困りごとや課題がわかりやすく言語化されている。	・個別支援計画と日々の活動や支援内容を保護者に伝える工夫をする。(連絡帳・送迎時の説明・SNS等での発信)
3	・保護者との良好なコミュニケーション	・日々の活動報告、送迎時の説明、おたよりやSNS等による情報発信が丁寧に行われており、保護者との信頼関係が強い。 ・相談体制も迅速で安心して利用できる体制を整えている。	・送迎時の短時間でも、子どもの良い姿を積極的に伝える「ポジティブフィードバック」を職員全体で意識して行う。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・活動プログラムのさらなる多様化	・保護者から「運動要素のある活動を増やしてほしい」という意見があり、活動内容の幅をさらに広げる余地がある。 ・活動プログラムの企画において、運動領域の専門性や人的リソースが十分でない。	・「サーキット遊び」や「運動遊び」を強化したプログラムを取り入れる。 ・感覚統合についての知識を深めるための研修の機会を設ける。
2	・支援が計画に沿っているかの説明不足	・従業者側は計画に沿って支援しているが、保護者側は「沿っているかはわからない」との回答があり、支援内容と計画の関連性を可視化する工夫が必要。	・日々の連絡帳に、支援内容と目標を関連付けて記入する。 ・送迎時の説明を「目標との関連」で行うようにする。 ・活動の「ねらい」を添えてSNS等で発信する。
3	・非常勤スタッフへの伝達不足、情報共有不足	・朝のみ、午後のみ、週1回～2回など勤務形態の違いにより全員に同じ情報が行き届かない構造的課題がある。	・勤務日数の少ない職員には個別に対応する。 ・口頭伝達では漏れが生じるため、連絡ノートの活用、確認したらチェック欄にサインをする。